

中間評価と 2 学期の具体的な方策		新しい取組 (実施時期・内容・担当等)
アクションプラン 1	アクションプラン 2	アクションプラン 3
<p>〈中間評価〉</p> <p>学校評価アンケートの結果から「課題の解決に向けて、意欲的に取り組むことができたと思う」生徒が各学年90%以上、「授業中や確認テストにおける振り返りを通して、学びを実感できたと思う」生徒が80%以上であった。生徒が少しずつ課題を意識し、授業で取り組めるようになってきたと思われる。しかし、3学年の学びの実感は他学年に比べて低い傾向にある。</p> <p>しかし、保護者アンケートから「お子さんは毎日家庭学習に取り組んでいる」の結果が低い。学びを実感しながらも、家庭学習へのつながりを意識した授業展開が必要である。</p>	<p>〈中間評価〉</p> <p>学校評価アンケートの「私は、学級の中で、互いのよさや違いを認め合うことができたと思う。」、「私は、互いの思いや立場を尊重して、相手の話を聞いたり自分の思いを伝えたりすることができたと思ひ」という項目については、学年の取組の差がそのまま評価の差にも結果として表れているように思われる。</p> <p>学年によっては、学級活動の授業を年間計画の通りに取り組むことができなかったということなので、学校行事の準備等の活動を考慮して日程調整をすることが必要である。</p>	<p>〈中間評価〉</p> <p>生徒が学校生活の中で、ICT 機器を使う機会が増えてきており、「学びを深めるために ICT 機器を活用できた」と回答した生徒は90%以上であるのに対して、「ICT 機器を活用できるように工夫した」と回答した教員は50%程度である。「タブレットのルールを守って使用した(使用できるよう指導した)」という項目についても生徒と教員間の認識に差が見られる。</p> <p>教員が、より使い方に習熟し、自信をもって授業に ICT 機器を活用する場面を設定することで、生徒の学びが一層深化していくと考える。そこで、教員同士の意見交流や事例研究をより一層進めていきたい。</p>
<p>〈2学期の方策〉</p> <p>〈方策1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒が各活動に目的をもって取り組むことができるように課題設定や見通しのもとせ方を工夫する。 ・本時の授業は単元の中でどのような位置づけなのか生徒に分かるように、単元構想の明確化を図る。 ・課題解決に向けた「気づきの共有タイム」の時間を設け、生徒の気づきの共有を図り、主体的な学びへとつなげる。 <p>〈方策2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、学びを実感できる振り返りの場を設定する。 ・家庭学習との連係を図るため、週末課題や毎時間の課題を工夫する。 ・定期考査1週間前に、生徒会と連係して「確認テスト」を行い、知識及び技能が確実に身に付けられるようにする。 	<p>〈2学期の方策〉</p> <p>〈方策1〉</p> <p>校時表の変更により、朝の活動時間が今までより少なくなる。そのため、二者択一ゲームの項目を減らすことで、対話の時間をしっかりと確保する。</p> <p>〈方策2〉</p> <p>学級活動が年間計画に沿って行われるように、学年主任や時間割担当者とも連携を取る。必要に応じて、短時間でも取り組むことができる短縮版を準備する等の対策も事前に行うことで対処する。</p>	<p>〈2学期の方策〉</p> <p>〈方策1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teams 教職員に ICT 活用チャネルを作成し、授業での使用事例、よかった点等をアップロードし、授業にどのように ICT 機器を取り入れているかなどを参考にできるようにする。 <p>〈方策2〉 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西條ワープロ検定を行い、タブレット使用の基本的スキル(主に文章入力)を高める。 <p>〈方策3〉 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で意見の共有や振り返りを行う際に ICT 機器を活用し、学びを深める場を設定する。